

## 環境調査結果のお知らせ

## 概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、魚類に対して有害なコクロディニウム・ポリクリコイデスが最大156細胞/mL、麻痺性貝毒原因プランクトンであるアレキサンドリウム属が最大36細胞/mL、下痢性貝毒原因プランクトンであるディノフィシス属が最大4細胞/mL確認されました。

コクロディニウム・ポリクリコイデスについては、漁業被害が想定される密度を超えているので、十分注意してください。またアレキサンドリウム属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

**今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。**

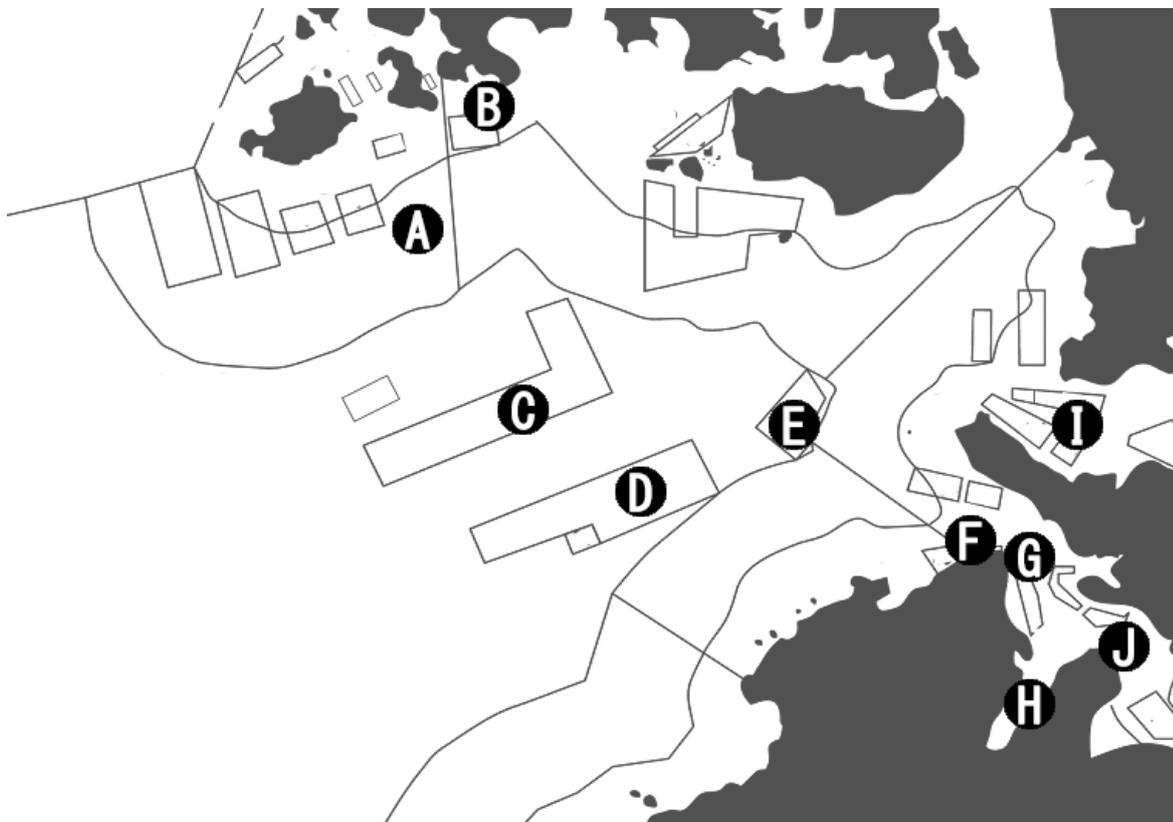
調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ディノフィシス 属
	(m)	(°C)		(mg/L)			
A 藻津 (-/36.6m) 【09:36】	0	21.3	30.2	8.3	0	2	0
	★ 4	20.9	34.2	7.5	0	2	0
	5	20.9	34.2	7.4	0	0	0
	10	20.7	34.3	6.9	0	0	0
	15	20.4	34.4	6.7	-	-	-
	20	20.3	34.4	6.9	-	-	-
B 宇須々木 (-/26.7m) 【09:29】	0	21.2	30.8	7.9	0	0	0
	★ 5	20.9	34.1	7.2	0	0	0
	10	20.6	34.3	6.9	0	0	0
	15	20.5	34.4	6.7	-	-	-
C 大島中央 (-/30.9m) 【09:45】	0	21.0	31.0	7.8	0	0	0
	★ 5	21.0	34.2	7.8	8	0	0
	10	20.7	34.3	7.1	0	0	0
	15	20.6	34.4	7.0	-	-	-
D 小筑紫中央 (-/50.6m) 【09:55】	0	21.1	33.3	8.1	0	0	0
	5	21.0	34.3	7.9	0	2	0
	★ 10	20.8	34.4	7.4	0	0	0
	15	20.4	34.4	6.9	-	-	-
E シラハエ (-/37.9m) 【10:07】	0	21.3	33.5	8.4	0	36	0
	★ 3	21.0	34.2	8.4	13	2	0
	5	20.9	34.3	7.7	54	3	0
	10	20.5	34.4	7.0	0	0	0
	15	20.1	34.5	6.6	-	-	-
20	19.7	34.5	6.3	-	-	-	
F 立石 (-/23.8m) 【10:16】	0	21.8	31.8	8.3	0	13	0
	★ 5	20.9	34.3	7.9	4	8	0
	10	20.6	34.4	7.2	4	0	0
	15	20.2	34.5	6.7	-	-	-
20	19.8	34.5	6.3	-	-	-	

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	クロロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ダイノフィシス 属
G 一切田 (-/22.3m) 【10:44】	0	21.8	32.5	8.7	0	5	0
	★ 3	21.3	33.9	8.8	78	4	0
	5	21.2	34.2	8.5	6	4	0
	10	20.8	34.3	7.4	34	10	0
	15	20.6	34.4	6.9	-	-	-
	20	20.4	34.4	6.4	-	-	-
H 栄喜奥 (-/14.5m) 【10:25】	0	21.9	31.2	8.7	8	23	0
	★ 2	21.4	33.9	8.9	16	17	0
	5	21.1	34.2	8.5	31	15	0
	10	21.1	34.3	7.8	0	9	0
I ヒロウラ (-/26.1m) 【10:53】	0	21.6	31.2	8.5	5	6	4
	★ 3	21.0	34.2	8.2	156	8	0
	5	20.8	34.3	7.7	40	0	0
	10	20.7	34.4	6.9	0	0	0
	15	20.4	34.4	6.5	-	-	-
	20	20.2	34.5	6.7	-	-	-
J 青瀬山 (-/16m) 【10:35】	0	22.2	30.6	8.5	0	26	0
	4	21.4	33.9	8.7	20	7	0
	★ 5	21.2	34.1	8.5	38	12	0
	10	21.0	34.3	7.8	20	0	0
	15	20.7	34.4	6.8	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL : <https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津            E: シラハエ        I: ヒロウラ  
 B: 宇須々木      F: 立石            J: 青瀬山  
 C: 大島中央      G: 一切田  
 D: 小筑紫中央    H: 栄喜奥

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。